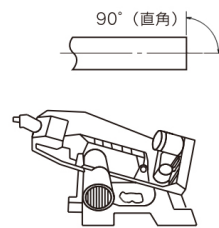


施工手順

施工準備手順(立て管・横枝管共通)

① 管の切断

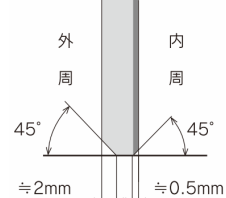
管の端面と軸線とが直角になるようにクランプして切断する。



●ノコ盤、バンドソー、チップソー等で切断

② 管端の面取り

パッキンの損傷や押し込み防止のために管端の面取りをする。

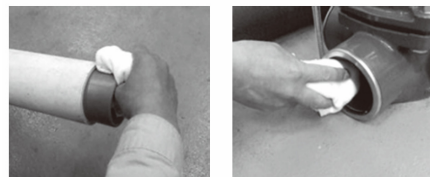


管端の防食方法は、使用される管メーカーの仕様に従って下さい

③ 管とパッキンの清掃

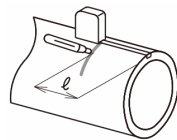
⚠ 埃等が付着したまま管を挿入しないでください。

モルタルの粉塵や、耐火二層管の切り粉などが付着していると、管とパッキン間の摩擦が小さくなって管が抜けやすくなります。湿らせたウエス等で管表面とパッキン内面を必ずきれいに拭いてから挿入して下さい。



④ マーキング線の記入

挿入寸法のマーキング線を記入する



	接続口呼び	挿入寸法 ℓ [mm]
上部立て管	125	65
	100	65
	80	65
横枝管	80, 65, 50	各 58
	125	68※
	100	60※
K型下部立て管	100	60※
	80	51※

※印は目安寸法です

支持金具 CPセッタ、KSTセッタ、DJセッタ 日栄インテック(株)製

CPセッタ(ゴム付)
CPシリーズ用

サイズ	(A)	P	L
CPセッタ	150	300	340
CPセッタS	150	250	300

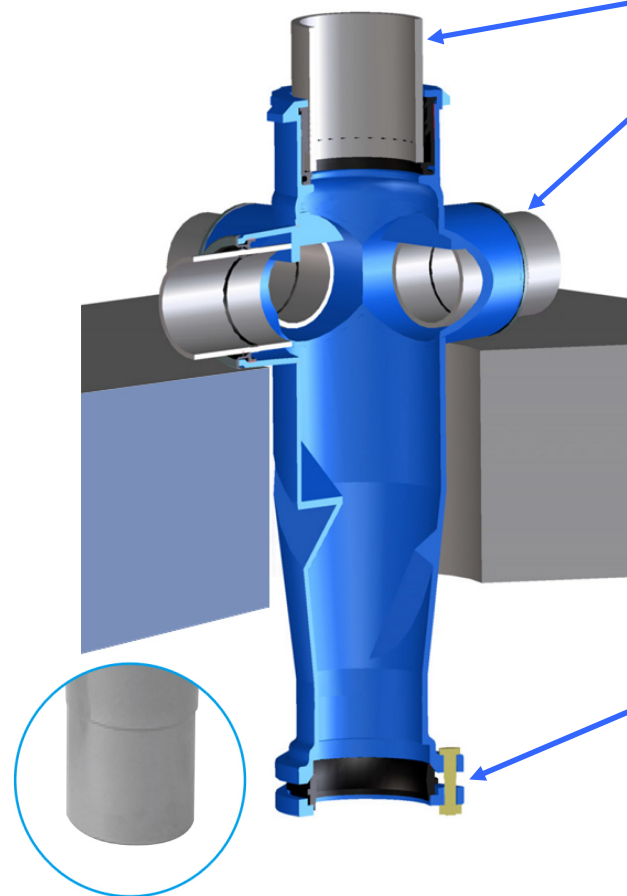
KSTセッタ(ゴム付・バンドのみ)
KST・113KST-Sシリーズ用

サイズ	(A)	P	L
80A	118	250	280
100A	144	300	330

DJセッタ(ゴム付・バンドのみ)
KST・CP・HQシリーズ用

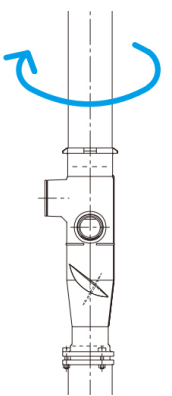
サイズ	(A)	P	◆L
80A	120	260	272
100A	144	280	292
125A	171	380	392

※ご注意: アンカー、全ねじボルト・ナットは付属しません。



上部立て管

- ① 面取りした立て管をVGパッキンの受け口に垂直に立て、管を回しながらVGパッキンが内側へ押し込まれないように完全に挿入する。
- ② 立て管を挿入後、VGパッキンが内側へ押し込まれていない事を確認する。
- ③ 差込み深さを示すマーキング線が受け口上端面にあることを確認する。



横枝管

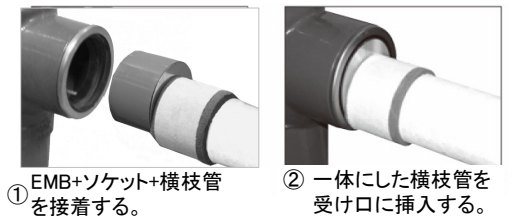
- ① 面取りした横枝管および便器接続管をKOパッキンのマクラ部に載せ、そのまま水平に継手受口の軸線に沿って押し込み、管端が管止め部のスペーサに当たるまで挿入する。完全に挿入されていない場合は漏水することがあります。
- ② マーキング線が横枝管受け口端面にあることを確認する。
- ③ 適正なこう配が確保されている事を確認する。



⚠ 排水横枝管の差し口に予めマーキングした最大呑込代58mmが確保された状態で接合完了して下さい。

⚠ 滑剤を塗布せずに管を挿入して下さい。

EMB接続部形状

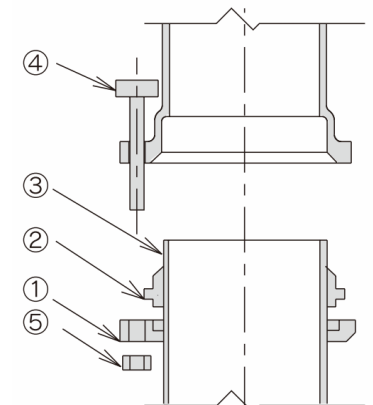


- ⚠ 施工上のご注意
- ① あらかじめエキセンブッシュ(EMB)、ソケット、横枝管を接着してください。
 - ② 一体にした横枝管を受け口に挿入して、EMBのステンレス面がKOパッキンのステンレス面より突出しないように配管施工してください。
 - ③ KOパッキンの許容可とう角度は±3°です。エキセンブッシュ(EMB)が全周方向に±3以上傾かないように配管してください。配管が3°以上傾くとEMBはKOパッキンから突出し、漏水する場合があります。
 - ④ KOパッキンとエキセンブッシュのステンレス面に表した「合い印」が、一直線になるように合わせてから、横枝管を接続してください。

下部立て管【K型仕様】

- ① KMフランジを立て管に通す。
- ② KMパッキンを立て管に通す。
- ③ 管を受け口に挿入する。管端と継手受け口底部との間に3mmのすき間を設けて下さい。
- ④ Tボルトを本体側フランジから挿入する。
- ⑤ ナットを適正トルクで締め付ける。
- ⑥ 片締めにならないように平均にボルトを締め付ける。(適正トルクで締め付けた際の、Tボルト先端がナットから突出する参考寸法を以下の表に示す。)
- ⑦ マーキング線がKMフランジ端面にあることを確認する。

呼び	ナット呼び	レンチ呼び	締め付けトルク [N・m]	Tボルト突出参考寸法 h[mm]
80	M10	17	25	10~11
100	M10	17	30	7~8
125	M12	19	40	10~11



下部立て管【S型仕様】

- 各立て管受け口に対応する滑剤を塗布して、S型直管部を挿入してください。S型の下部直管部は鋼管外径仕様です

⚠ ご注意

- あらかじめ装着してあるVGパッキン、KOパッキンは取り外さないで下さい。一旦取り外したパッキンを取り付けると漏水することがあります。
- KOパッキンのステンレス板がコンクリートスラブの凸部等に接触しないように施工して下さい。接触していると配管の振動によって異音が発生することがあります。
- 挿入する管は端面の面取りを行い、バリ、カエリが完全に除去されたものをご使用下さい。
- VGおよびKOパッキンに排水管を挿入する場合は、管の外径寸法がJIS規格で定められた許容差内の管をご使用下さい。JIS規格から外れている場合や、管表面に型ずれによる著しい段差、凹凸、錆、きず等がある場合には、漏水するおそれがあります。JIS規格に定められた許容差内の管をご使用下さい。
- ねじ穴やパッキンの当たり面を付着物のないきれいな状態にして下さい。ボルトの締め付け不良や水密・気密不良の原因になります。ボルト・ナットは必ず指定のものを使用し、指定のトルクで均等に締め付けて下さい。指定外の取付けをすると、水密・気密不良、破損の原因になります。
- 排水立て管および排水横枝管の差し口に予めマーキングした最大呑込代が確保された状態で接合完了して下さい。